

年報 2008

市立八幡浜総合病院



目次

目次	2
巻頭言	3
内科	4
糖尿病内科	6
循環器内科	13
小児科	14
外科	16
整形外科	18
皮膚科	21
泌尿器科	23
産婦人科	25
耳鼻咽喉科	26
放射線科	27
麻酔科	30
歯科口腔外科	32
リハビリテーション科	34
臨床病理科	36
放射線室	38
薬局	39
栄養療法科	41
医療機器管理室	43
看護部	45
地域連携室	49
医療情報管理室	52
医事係	55
病院の行事等	58

巻頭言

このたび市立八幡浜総合病院の年報第3号を発刊し、皆様にお届けする事ができる事は、当院の現況をかえりみますと大変意義深い事であります。2008年度は、一昨年来の急激な医師不足の為、当院の存続すら危ぶまれた年でありました。心熱き医師達、パラメディカルの人達の涙ぐましい御努力、更に行政側の力強いバックアップ、多くの市民の声援のおかげで何とか乗りきる事ができました。

熱望していた内科医、脳外科医の増員が確実となりました。地域医療再生計画に八西地区が該当し、二次救急医療の整備、愛媛大学に救急医療学の寄附講座が新設され、そのサテライトが当院に設置されることになりました。当院の将来に明かりがさしてきたといえます。

今まで、当院におきましては、医療の質の向上、医療サービスの向上、経営の効率化を旗じるしとしてやってまいりました。“市立八幡浜総合病院があるから安心して日常生活が送れる”という医療上の安心感を地域住民に保障できることを病院の使命としています。現状は、医師不足の解消、二次救急医療の完治、病院の赤字経営からの脱却、病院の建てかえなど、早急に解決せねばならない問題があり、いまだ道なかばといったところであります。

医療は、高度に専門化、細分化された多くの職種の連携でなりたつものでありますが、このたびの医師不足を経験すると、患者様のニーズに応える為には、総合診療科的な幅広い知識、技術、経験が必要とされる事が理解できます。

この年報は、各診療科、各部門の診療業務内容、スタッフの紹介とともに2008年の診療実績、治療成績などが報告されています。当院を鳥瞰図的に見ることができ、有機的に把握することができるのではないかと思います。地域の先生方に、市立八幡浜総合病院の内容について知っていただき、何かのお役にたつ事を願って、巻頭言といたします。

市立八幡浜総合病院

院長 久保 敬

内科

1 概要

2008年より内科医師数の減少に伴い、通常診療（一般内科・救急医療）維持のために専門領域を縮小し対応しています。

365日の2次救急対応も週5日に限定せざるをえない状況となり、外来診療もすべて予約制で対応しています。

2 スタッフ紹介

(1) 医師

仙波尊教

資格：日本内科学会認定内科医

所属学会：日本内科学会、日本感染症学会、日本血液学会、日本リウマチ学会

長谷部晋士

資格：日本内科学会認定内科医

所属学会：日本内科学会、日本感染症学会、日本東洋医学会、日本糖尿病学会

酒井武則

資格：日本内科学会総合内科専門医・認定内科医、日本消化器病学会専門医、

日本消化器内視鏡学会専門医、愛媛大学医学部教育協力者、日本病態栄養学会評議員、

日本糖尿病学会指導医・専門医、糖尿病協会愛媛支部理事、NSTコーディネーター

所属学会：日本内科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本膵臓学会

日本肝臓学会、日本超音波学会、日本糖尿病学会、日本内分泌学会、

日本病態栄養学会

上村重喜

資格：日本内科学会総合内科専門医・認定内科医、日本循環器学会専門医、

日本高血圧学会指導

所属学会：日本内科学会、日本循環器学会、日本高血圧学会、日本不整脈学会、

日本心血管インターベンション学会、日本心臓リハビリテーション学会

(2) 研修医

竹治 智

3 学術活動

(1) 学会・研究会発表

第 51 回日本糖尿病学会年次学術集会 (2008.5.22-24、東京)

糖尿病患者の悪性腫瘍スクリーニングにおける腫瘍マーカーの位置づけ

竹治 智、酒井武則、古川慎哉、松浦文三、恩地森一、谷口嘉康、

長谷部晋士

第 98 回日本内科学会四国地方会 (2008.6.29、)

高血圧性心不全で救急搬送された副腎外褐色細胞腫の 1 例

長谷部晋士、竹治 智、仙波尊教、上村重喜、平山 猛、酒井武則、

岩田 猛

第 99 回日本内科学会四国地方会 (2008.11.2、松山市)

糖尿病・脂肪肝に合併した非化膿性皮下脂肪織炎の 1 例

竹治 智、酒井武則、加藤壽一、松浦文三、恩地森一

第 90 回 日本消化器病学会 四国支部例会 (2008.11.9、松山市)

四国地区における消化器がん薬物療法専門医の在り方について—初期研修医の立場から—

竹治 智

日本糖尿病学会中国四国地方会第 46 回総会 (2008.11.14-15、宇部市)

MRI で経過を追えた低血糖脳症の 1 例

竹治 智、酒井武則、長谷部晋士、谷口嘉康、古川慎哉、松浦文三、

恩地森一

糖尿病内科

1 概要

昭和 39 年に前院長の吉田良一先生が全国に先駆けて糖尿病教室を開設されて以来 40 年という歴史のある糖尿病診療をおこなっています。眼科・泌尿器科（透析）・循環器内科（PCI）と連携し、当院のみで糖尿病に関する合併症も含めた診療が完結できるよう体制を整えています。H20 年より内科医師数の減少に伴い、通常診療（一般内科・救急医療）維持のために約半数の患者様の病診連携を開始し、地域で糖尿病診療をおこなう体制の整備をすすめています。

糖尿病教育に関しては、糖尿病療養指導士を中心として管理栄養士・看護師・薬剤師・検査技師・理学療法士によるチーム医療をおこなっています。また、外来指導と個別指導に重点をおいた特徴のある療養指導に取り組むとともに、平成 20 年 12 月よりフットケア外来を開始しました。さらに、各種研修会を開催し、当該医療圏での糖尿病診療・療養指導のレベルアップのため ECDE が中心となり多くの院外活動もおこなっています。

2 スタッフ紹介

(1) 医師

酒井武則

資格：日本糖尿病学会指導医・専門医、糖尿病協会愛媛支部理事、愛媛大学医学部教育協力者、日本病態栄養学会評議員、NST コーディネーター

所属学会：日本糖尿病学会、日本内分泌学会、日本病態栄養学会

長谷部晋士

所属学会：日本糖尿病学会

(2) 愛媛療養指導士

此上保美、谷本千鶴子、駿河陽子、川野理都子、木戸美枝子、薬師神江利、宮本和典、二宮三枝子

(3) 愛媛県糖尿病看護実践に強い看護師育成研修会修了者

川野理都子

3 診療実績

(1) 糖尿病外来：週2日（患者数約800人）

外来インスリン導入（パス） 月約5例

(2) 糖尿病教育・コントロール入院：月10～20人

(3) 糖尿病教育指導

外来糖尿病教室 月約10～20人（初期教育コース・追加教育コース・特別コース）

外来療養指導 月約80～100人

フットケア外来 月約10～20例

教育入院 月約1～3人（1週コース・2週コース）

4 学術活動

(1) 学会・研究会発表

① 全国学会

第51回日本糖尿病学会年次学術集会（2008.5.22-24、東京）

E460F18を用いたコレステラミドの血糖降下改善機序に関する検討

吉田直彦、古川慎哉、三宅映己、上田晃久、酒井武則、宮岡弘明、

日浅陽一、松浦文三、道堯浩一郎、恩地森一

糖尿病患者における健康食品摂取に関する実態調査（愛媛県糖尿病臨床研究グループ
多施設研究）

小堀友恵、古川慎哉、三宅映己、上田晃久、新谷哲司、山内一彦、

川本龍一、宮内省蔵、南 尚佳、田丸正明、酒井武則、山下治彦、

谷口嘉康、宮岡弘明、日浅陽一、松浦文三、恩地森一

動脈硬化疾患予防ガイドラインに基づいた糖尿病患者の非空腹時レムナントリポ蛋白
コレステロール管理目標値設定の試み

古川慎哉、三宅映己、上田晃久、酒井武則、日浅陽一、松浦文三、

道堯浩一郎、恩地森一

糖尿病患者における非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD) の臨床的意義

三宅映己、松浦文三、上田晃久、古川慎哉、酒井武則、宮岡弘明、

日浅陽一、道堯浩一郎、恩地森一

糖尿病患者の悪性腫瘍スクリーニングにおける腫瘍マーカー™の位置づけ

竹治 智、酒井武則、古川慎哉、松浦文三、恩地森一、谷口嘉康、
長谷部晋士

愛媛県における糖尿病地域連携(愛媛 DM 連携 Circle)への取り組み

伊藤嘉信、古川慎哉、小堀友恵、三宅映己、上田晃久、石川真紀、
山内一彦、川本龍一、宮内省蔵、南 尚佳、山下善正、田丸正明、
酒井武則、宮岡弘明、谷口嘉康、松浦文三、恩地森一

食後 CPR と血糖の比(CG 比)の臨床的有用性の検討(第2報)

酒井武則、古川慎哉、松浦文三、恩地森一、谷口嘉康、長谷部晋士、
竹治 智

第 12 回日本病態栄養学会年次学術集会 (2009.1.10-11、京都市)

愛媛県下の糖尿病患者における健康食品摂取の現状と問題点

上田晃久、古川慎哉、小堀友恵、宮岡弘明、宮内省蔵、酒井武則、
山下善正、松浦文三、恩地森一

愛媛県における糖尿病地域連携(愛媛 DM 連携 Circle)の現状と将来展望

古川慎哉、宮岡弘明、小堀友恵、宮内省蔵、酒井武則、山下善正、
谷口嘉康、松浦文三、恩地森一

カーボカウントを用いた糖尿病療養指導の試み

薬師神江利、井上貴美子、大家こず恵、井上昌子、竹治 智、酒井武則

病診連携における栄養士の課題

井上貴美子、薬師神江利、大家こず恵、井上昌子、竹治 智、酒井武則

② 地方学会

第 99 回日本内科学会四国地方会 (2008.11.2、松山市)

糖尿病・脂肪肝に合併した非化膿性皮下脂肪織炎の 1 例

竹治 智、酒井武則、加藤壽一、松浦文三、恩地森一

日本糖尿病学会中国四国地方会第 46 回総会 (2008.11.14-15、宇部市)

ピオグリタゾン中止後に急速に体重が減少した浮腫のない1例

吉野 到、酒井武則、古川慎哉、宮岡弘明、谷口嘉康

ヒューマログ mix50 1日3回注射法の有用性-ヒューマログ追加との比較-

酒井武則、竹治 智、長谷部晋士、古川慎哉、松浦文三、恩地森一

愛媛県下の糖尿病患者における健康食品摂取に関する実態調査-使用状況の推移-

小堀友恵、古川慎哉、三宅映己、上田晃久、山内一彦、酒井武則、

南 尚佳、山下治彦、宮岡弘明、松浦文三、恩地森一

外来通院中2型糖尿病の血糖コントロール実態調査(愛媛DMサークル多施設共同研究)

木阪吉保、古川慎哉、三宅映己、小堀友恵、新谷哲治、山内一彦、

宮内省蔵、酒井武則、川本龍一、宮岡弘明、恩地森一

糖尿病患者におけるEDの治療に関する実態調査

古川慎哉、三宅映己、上田晃久、吉田直彦、新谷哲治、酒井武則、

宮岡弘明、松浦文三、恩地森一

MRIで経過を追えた低血糖脳症の1例

竹治 智、酒井武則、長谷部晋士、谷口嘉康、古川慎哉、松浦文三、

恩地森一

インスリン注射針処方数調査

駿河陽子、谷本千鶴子、此上保美、石橋一美、川野理津子、竹治 智、

長谷部晋士、酒井武則

カーボカウントを用いた糖尿病療養指導の試み

薬師神江利、井上貴美子、大家こず恵、井上昌子、竹治 智、長谷部晋士、

酒井武則

病診連携による食事療法への影響

井上貴美子、薬師神江利、大家こず恵、井上昌子、竹治 智、長谷部晋士、

酒井武則

③ 研究会

第 11 回八幡浜大洲糖尿病チーム医療研修会 (2008.6.19 八幡浜市)

当院におけるペン型注射器用注射針の再使用の現状調査

駿河陽子、酒井武則

第 29 回八幡浜・大洲・消化器・糖尿病・内分泌研究会 (2008.10.15 大洲市)

糖尿病・脂肪肝に合併した非化膿性皮下脂肪織炎の 1 例

竹治 智、酒井武則、的場勝弘、山本尚幸、加藤壽一

第 26 回愛媛内分泌代謝疾患懇話会 (2008.10.16 松山市)

MRI で経過を追えた低血糖脳症の 1 例

竹治 智、酒井武則

第 12 回八幡浜大洲糖尿病チーム医療研修会 (2008.10.30 八幡浜市)

カーボカウントを用いた糖尿病療養指導の試み

薬師神江利

第 13 回八幡浜大洲糖尿病チーム医療研修会 (2009.2.26 大洲市)

黒胡椒ベースのアロマオイルを使用した嚥下訓練の試み

中根義貴

外来患者様の残薬調査結果について

宮本和典

第 27 回愛媛内分泌代謝疾患懇話会 (2009.3.17 松山市)

低 K 血症による高血糖の 1 例

竹治 智、酒井武則

(2) 論文発表

南 佳尚、古川慎哉、新谷哲司、宮内省蔵、酒井武則、宮岡弘明：外来通院中 2 型糖尿病の血糖コントロール実態調査 (愛媛県 15 施設による多施設共同研究)．愛媛医学 2008 ; 27 : 173-176

小堀友恵、古川慎哉、三宅映己、上田晃久、酒井武則、宮岡弘明：糖尿病患者の健康食

品摂取状況に関する実態調査（愛媛県糖尿病臨床研究グループ多施設共同研究）. 愛媛医学 2008 ; 27 : 69-74

(3) 講演

八幡浜医師会講演会（2008.5.29、八幡浜市）

糖尿病と悪性腫瘍 酒井武則

第3回八幡浜 DM 連携 Circle（2008.7.17 八幡浜市）

糖尿病治療ガイドラインについて 酒井武則

第5回八幡浜 DM 連携 Circle（2008.12.11 八幡浜市）

インスリン治療の基本 酒井武則

第2回大洲 DM 連携 Circle（2009.2.18 大洲市）

糖尿病治療ガイドラインについて 酒井武則

第38回愛媛糖尿病チーム医療研修会 14周年記念オープンセミナー（2009.3.7 松山市）

「糖尿病薬物療法の基本」 α グルコシダーゼ阻害薬の作用と症例 宮本和典

第6回八幡浜 DM 連携 Circle（2009.3.18 八幡浜市）

インスリン治療の基本2 酒井武則

(4) 司会・座長

① 全国学会

第12回日本病態栄養学会年次学術集会（2009.1.10-11、京都市）

一般演題9 司会：酒井武則

② 地方学会

日本糖尿病学会中国四国地方会第46回総会（2008.11.14-15、宇部市）

一般演題コメディカル3 座長：酒井武則

③ 研究会

第11回八幡浜大洲糖尿病チーム医療研修会（2008.6.19 八幡浜市）

一般演題 座長：酒井武則

第4回八幡浜 DM 連携 Circle（2008.9.24 八幡浜市）

講演 座長：酒井武則

第 26 回愛媛内分泌代謝疾患懇話会 (2008.10.16 松山市)

一般演題 座長：酒井武則

第 6 回八幡浜大洲糖尿病チーム医療研修会 (2006.10.26 八幡浜市)

レクチャー 司会：井上貴美子、薬師神江利

第 12 回八幡浜大洲糖尿病チーム医療研修会 (2008.10.30 八幡浜市)

一般演題 座長：大家こず恵

第 4 回愛媛軽症糖尿病懇話会 (2008.11.17、松山市)

話題提供 座長：酒井武則

生活習慣病学術講演会 (2008.12.12、松山市)

一般演題 1 座長：酒井武則

第 13 回愛媛 SDM 研究会 (2009.1.22、宇和島市)

レクチャー 1、2 座長：酒井武則

第 130 回愛媛糖尿病同好会 (2009.3.13 松山市)

一般演題 座長：酒井武則

第 27 回愛媛内分泌代謝疾患懇話会 (2009.3.17 松山市)

話題提供 座長：酒井武則

第 30 回八幡浜・大洲・消化器・糖尿病・内分泌研究会 (2009.3.18 八幡浜市)

一般演題 座長：酒井武則

循環器内科

循環器内科は、急性心筋梗塞を含めた急性冠症候群に対する緊急の血管内治療や、不整脈に対する緊急ペーシングなどに24時間体制で対応しています。心臓だけでなく、末梢動静脈に対するインターベンション、カテーテルアブレーションも施行しております。

地域の開業医との連携を強めるために地域連携懇話会を開いており、出席してもらっています。開業医の先生方に感謝するとともに、さらに多くの医師に参加して頂けるように努力しています。

1 平成20年度専門的診断術及び実績

心エコー	2,440 例
経食道心エコー	14 例
頸部エコー	195 例
下肢エコー	170 例
マスター負荷心電図	40 例
トレッドミル負荷試験	15 例
心筋シンチ	41 例
心臓MRI	6 例
心臓カテーテル検査	114 例
その中で経皮的冠動脈形成術（PCI）は	58 例
末梢動脈・静脈に対するカテーテル治療	10 例
（下大静脈フィルター留置術含む）	
心臓電気生理学的検査及びペースメーカー治療	
恒久式ペースメーカー植え込み	34 例
（ジェネレータ交換含む）	
不整脈に対するカテーテルアブレーション	3 例

2 学術活動 なし

小児科

1 外来診療日程

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	一般外来 (小西)	一般外来 (小泉)	一般外来 (小西)	一般外来 (小泉)	一般外来 (小西)
午後	一般外来 (小泉) 循環器外来 (小西)	慢性疾患 予防接種 (小西)	乳児健診 BCG 接種 (小泉)	一般外来 (小泉)	一般外来 (小西)

*毎月第1木曜日午前は、小児神経外来（福田医師による）も併設しています。

*毎月第3金曜日午後は、小児循環器外来（檜垣医師による）も併設しています。

2 スタッフ紹介

(1) 常勤

小西 恭子（こにし きょうこ）：科長（専門：小児科一般、小児循環器）

平成 7 年 鳥取大学医学部卒業

資格 日本小児科学会専門医

日本小児循環器病学会暫定指導医

所属学会 日本小児科学会、日本小児循環器病学会、胎児心臓病研究会、

日本 Pediatric Interventional Cardiology 学会、

日本心エコー図学会、日本未熟児新生児学会、日本川崎病学会

小泉 宗光（こいずみ むねみつ）：医員（専門：小児科一般、小児アレルギー）

平成 16 年 愛媛大学医学部卒業

所属学会 日本小児科学会、日本アレルギー学会、日本小児アレルギー学会

(2) 非常勤

檜垣 高史（ひがき たかし）：愛媛大学医学部小児科 准教授

昭和 63 年 愛媛大学医学部卒業

資格 日本小児科学会専門医、日本小児循環器病学会評議員、

日本小児循環器病学会暫定指導医、日本周産期・新生児学会指導医

福田 光成（ふくだ みつまさ）：愛媛大学医学部小児科 講師

平成 3 年 愛媛大学医学部卒業

資 格 日本小児科学会専門医、日本小児神経学会専門医、
日本てんかん学会認定医・臨床専門医

3 統計

(1) 入院患者数

年度	人数
平成 18 年	532 人
平成 19 年	437 人
平成 20 年	360 人

(2) 外来患者数

平成 20 年 3,097 人

4 科の特徴

小児科外来は、現在 2 名の体制で診療を行っております。午前中は一般診療を行い、午後は、火曜日、水曜日については、一般診療をお断りし、慢性疾患外来など専門外来を行っております。また、従来は月に 1 回であった、檜垣高史医師による循環器外来に加えて、2008 年 10 月に小西の着任後は、毎週月曜日の午後も循環器外来を行うようになりました。これにより、学校心電図検診の二次精査目的の生徒の受診や、先天性心疾患が疑われる新生児の紹介にも随時対応ができるように致しました。今後も地域の小児医療に貢献できるように、2 名で切磋琢磨して頑張っていこうと思っております。

5 学術活動

(1) 学会・研究会発表

- ・毛虫、蝶に接触後皮疹を生じた蛾 RAST 陽性の 2 症例
小泉宗光、楠目和代、村上至孝、林正俊
第 20 回四国小児アレルギー研究会、2008 年 5 月、徳島
- ・肺分画症への異常血管に対してコイル塞栓術を施行した scimitar 症候群の 1 例
小西恭子、村尾紀久子、太田雅明、山本英一、檜垣高史、石井栄一
四国小児循環器研究会、2008 年 11 月、高知

外科

1 医師紹介

國吉 巖 : 副院長 昭和 45 年 山口大学医学部卒業

昭和 53 年 当院赴任

所属学会：日本外科学会、日本消化器外科学会、日本臨床外科学会、日本大腸肛門病学会

的場 勝弘 : 科長 平成 8 年 山口大学医学部卒業

平成 19 年 4 月 当院赴任

所属学会：日本消化器外科学会専門医、日本外科学会専門医、日本臨床外科学会、日本癌治療学会、日本内視鏡外科学会

蘓村 秀明 : 医長 平成 11 年 山口大学医学部卒業

平成 20 年 2 月 当院赴任

所属学会：日本外科学会専門医、日本消化器外科学会、日本消化器病学会、日本臨床外科学会、日本癌治療学会、日本内視鏡外科学会

新藤芳太郎 : 医員 平成 16 年 山口大学医学部卒業

平成 18 年 4 月 当院赴任

平成 21 年 3 月 転任（後任 松井 洋人）

所属学会：日本外科学会、日本消化器外科学会、日本臨床外科学会、日本肝胆膵外科学会、日本癌治療学会

2 科の特徴

当院外科は消化器外科と一般外科（乳腺等）を専門としており、山口大学第二外科（現：消化器・腫瘍外科）から 40 年以上途切れることなく医局員が派遣されています。

過疎化による人口減少や地理的環境等により大病院志向の患者様も増加していますが、平成 20 年の手術症例は 360 例（うち全身麻酔 170 例）と大きな減少はありません。手術術式に関しても、適応を判断しながら腹腔鏡を用いた低侵襲手術などに取り組んでいます。

近年、医師の都市集中により消化器内科医も減少していますが、当科においては内視鏡検査

(胃内視鏡・大腸内視鏡など)にも積極的に取り組み、診断から治療まで一貫して行っています。術後抗癌剤治療に関しては胃癌、大腸癌治療ガイドライン等を参考にしながら、大学病院または都会の市中病院と同等な治療ができるよう心がけています。

日本外科学会、日本消化器外科学会、日本臨床外科学会等に所属し、活発な学会発表を行いながら、日進月歩の知識・技術の習得に努め、患者様第一と考え、4人一丸となって地域医療に邁進しています。

3 平成 20 年の手術症例

胃癌：	21 例	乳癌：	10 例
結腸癌：	17 例	胆石胆嚢炎：	37 例（うち 23 例は腹腔鏡下手術）
直腸癌：	8 例	総胆管結石：	22 例
腸閉塞の手術：	9 例	虫垂炎：	17 例（うち 1 例は腹腔鏡下手術）
ヘルニア：	34 例		
その他の全身麻酔：	37 例		
痔核・痔ろう手術：	78 例		
その他の脊椎麻酔・局所麻酔手術：	70 例		

4 学術活動

(1) 学会・研究会発表

「大動脈弁置換術後の患者に発症したメッケル憩室出血の 1 手術例」

的場勝弘，蘓村秀明，新藤芳太郎，国吉巖

第 21 回 愛媛外科手術侵襲研究会（2008 年 10 月）

整形外科

1 医師紹介

院長：久保 敬（くぼ たかし）

出身大学：広島大学（昭和 46 年卒）

資格：日本整形外科学会専門医、医学博士

専門分野：手の外科、整形外科一般

所属学会：日本整形外科学会、日本手の外科学会、中部日本整形災害外科学会評議員 他

科長：堀田 恵司（ほりた けいじ）

出身大学：広島大学（昭和 56 年卒）

資格：日本整形外科学会専門医、医学博士

専門分野：膝関節外科、整形外科一般

所属学会：日本整形外科学会、日本膝関節学会、中部日本整形災害外科学会評議員 他

医長：坂上 秀樹（さかうえ ひでき）

出身大学：関西医科大学（平成 11 年卒）

資格：日本整形外科学会専門医

専門分野：整形外科一般

所属学会：日本整形外科学会、中部日本整形災害外科学会 他

医長：温泉川 一喜（ゆのかわ かずき）

出身大学：愛媛大学（平成 13 年卒）

資格：日本整形外科学会専門医

専門分野：整形外科一般

所属学会：日本整形外科学会、中部日本整形災害外科学会 他

医 員：須賀 紀文（すが のりふみ）

出身大学：金沢医科大学（平成 17 年卒）

専門分野：整形外科一般

所属学会：日本整形外科学会、中部日本整形災害外科学会 他

2 科の紹介

本年も引き続き、5 人の整形外科医で外来・病棟診療、手術を行っています。外傷による四肢骨折を始め、変形性関節症や骨粗鬆症、関節リウマチといった慢性疾患など、運動器疾患全般を幅広く診療しています。八幡浜という地域性から、高齢者の大腿骨近位部骨折や脊椎圧迫骨折の症例が多い一方で、乳児の先天性股関節脱臼検診や、青壮年者におけるスポーツ障害の治療にも精力的に取り組んでいます。疾患部位としては、手の外科・膝関節外科を中心に診療しています。日本整形外科学会、中部日本整形災害外科学会等に所属し、積極的に学会発表を行いながら知識・技術の向上に努めています。地域に根ざした医療を今後も行ってまいりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

3 手術件数（平成 20 年度）

総数) 373 件

内訳) 手の外科・外傷：91 件

膝関節鏡視下手術（前十字靭帯再建術、半月板縫合術など）：12 件

大腿骨頸部骨折 人工骨頭挿入術：21 件

大腿骨近位部骨折 骨接合術：52 件

上肢骨折 骨接合術：37 件

下肢骨折 骨接合術：34 件

挫創部など 創傷処理：92 件

その他（アキレス腱断裂縫合術、腫瘍摘出術など）：34 件

4 学術活動

(1) 学会・研究会発表

- ・当科における周術期抗凝固薬の使用経験

児玉 祥、堀田 恵司、温泉川一喜、坂上秀樹、久保 敬
第1回 大洲地区 VTE マネジメントフォーラム (大洲市)

- ・患肢を温存し得た大腿部壊死性筋膜炎の1例

坂上 秀樹、堀田 恵司、児玉 祥、温泉川一喜、久保 敬
第41回 中国四国整形外科学会 (高知市)

(2) 論文発表

- ・患肢を温存し得た大腿部壊死性筋膜炎の1例

坂上 秀樹、堀田 恵司、児玉 祥
中国四国整形外科学会誌 21 巻 2 号

皮膚科

南予では、公的病院・診療所の数は少なくありませんが、皮膚科の常勤医がいる病院は極めて少数です。その上皮膚科専門医は都市部に集中する傾向があります。そのため郡部では早期受診、診断確定の機会を失い、病状が進んで来院される患者様が少なくありません。当科ではこれらを踏まえ、いわゆる「西予」地区における、ただひとつの常設皮膚科のある病院としての役割を果たし、この地域の患者様が専門的な診断や治療が受けられるようサポートを行っていきたいと考えております。

1 スタッフ

松田光司

昭和 51 年 鹿児島大学医学部卒業

日本皮膚科学会認定皮膚科専門医

医学博士

2 診療内容

(1) 皮膚科診療について

皮膚科一般を対象とするが、難治性疾患や広範囲、複雑な部位の皮膚癌については、愛大皮膚科、形成外科と連携し対応しています

(2) 形成外来について

毎月第 4 水曜日の午後に、愛大形成外科医による診察と外来手術を行っています。完全予約制ですので、前もって一度皮膚科を受診し、予約を取ってください。また愛大医師の都合により日時が変更になる場合があります。

(3) 褥瘡（とこずれ）について

急速に進む高齢化社会の中で、寝たきり状態の問題が最近クローズアップされてきております。八西地区は他の市町村に比べて高齢者の割合が多いため、長期臥床に伴って発生する褥瘡の患者様の増加が当然予想される状況です。市立病院では、これに対応するため、2002 年春に褥瘡対策委員会を設置しました。医師、看護師、栄養士を中心としたスタッフが連携を取りながら、エアマットやクッションの選定、スキンケア、栄養管

理、治療方針の決定など定期的に協議を行っております。各病棟に配属された、褥瘡のエキスパートナースが中心となり、入院時すでに褥瘡が出来ている患者様だけでなく、褥瘡ができる可能性がある患者様に対しても、予防的対応を行っております。皮膚科もこのチーム医療の一員として、患者様のアメニティの向上にお役に立ちたいと考えております。

3 学術活動 なし

泌尿器科

1 スタッフ

武田 肇 (たけだ はじめ)	副院長	前 愛媛大学医学部附属病院 講師 日本泌尿器科学会 専門医・指導医 日本透析医学会 専門医・指導医 日本泌尿器科学会 西日本評議員	医学博士
柳垣 孝広 (やながき たかひろ)	医長	前 香川県済生会病院泌尿器科医長 日本泌尿器科学会 専門医・指導医	

施設認定:日本泌尿器科学会基幹教育施設・日本透析医学会教育関連施設

泌尿器科学会と透析医学会のダブルタイトルホルダーは南予では当院だけです。

(市立大洲病院は透析医学会のみ、市立宇和島病院は泌尿器科学会のみです。)

2 透析関連実績

血液透析患者 最大 54 人 腹膜透析患者 最大 17 人 (2008 年実績)

3 2008 年手術統計

(1) 副腎・腎臓・尿管

副腎摘出術 (褐色細胞腫ほか)	2 件
根治的腎摘出術 (腎癌)	3 件
根治的腎尿管全摘術 (腎盂・尿管癌)	1 件
腎血管再建術 (乳び尿)	1 件
経皮的腎切石術 (腎結石)	1 件
尿管切石術 (尿管結石)	2 件
経皮的腎瘻造設術	4 件
経皮的腎生検	2 件

(2) 膀胱

経尿道的膀胱腫瘍切除術 (膀胱癌)	2 2 件
膀胱全摘出・回腸導管造設術 (膀胱癌)	2 件
膀胱部分切除術 (大腸癌)	1 件
骨盤内リンパ郭清術 (尿膜管癌)	1 件
経尿道的膀胱碎石術 (膀胱結石)	3 件
膀胱切石術 (膀胱結石)	2 件
経皮的膀胱瘻造設術	2 件

(3) 前立腺・尿道

根治的前立腺全摘術 (前立腺癌)	6 件
経尿道的前立腺切除術 (前立腺肥大症)	3 2 件
前立腺温熱治療 (前立腺肥大症)	1 件
経直腸的前立腺生検	5 0 件
経尿道的尿道形成術 (尿道狭窄)	3 件
膀胱脱・尿失禁根治術等 (膀胱脱・尿失禁など)	4 件

(4)	精巣・陰茎	
	高位精巣摘除術（精巣癌）	1 件
	精巣摘除術（前立腺癌）	2 件
	陰嚢・精索水腫根治術	1 件
	包茎手術	4 件
(5)	透析関連	
	内シャント造設術（人工血管をふくむ）	2 5 件
	CAPD カテーテル留置術など	1 0 件
	シャント PTA	8 4 件
(6)	その他	6 件
(7)	体外衝撃波結石破碎術（腎・尿管結石）	1 0 0 件
	合計	3 7 8 件

4 学術活動

(1) 学会・研究会発表

- ・透析新聞発行 5 年半を振り返って
石見 久美 ほか（第 27 回南予透析研究会 2008.05.15 宇和島市）
- ・透析新聞発行 5 年半を振り返って
石見 久美 ほか（第 19 回愛媛人工透析研究会 2008.08.30 松山市）
- ・腹膜透析導入により人工関節全置換術を施行し得た移植腎機能不全の一例
武田 肇 ほか（第 14 回日本腹膜透析研究会 2008.09.14 札幌市）
- ・一年間の観察期間を経て摘出した尿管癌のリンパ節再発の一例
柳垣 孝広 ほか（第 84 回日本泌尿器科学会四国地方会 2007.01.31 徳島市）

(2) 論文発表

症例報告

- ・鎖肛術後で巨大結腸を有する成人に対する CAPD 導入の一例
柳垣 孝広 高橋 真司 武田 肇 中野 吉朗
(日本透析医学会雑誌 : in press)

(3) 講演・座長

- ・腎臓を考える
武田 肇 (第 4 回八幡浜 DM 連携サークル 2008.09.24 八幡浜市)
- ・八幡浜医師会学術講演会での座長 多数
武田 肇

産婦人科

少子高齢化に伴い、八西地区での分娩件数は年々減少傾向にあります。

その中で、当院では、小児科、麻酔科との連携が可能であるという特徴を生かして、母児ともに安全な分娩を心がけています。産科病室のリフォームや給食の食器の改善など、他分野のスタッフの協力も得ながら、産婦さんが快適な入院生活を送れる環境づくりを行っています。

また、婦人科症例については、良性疾患はできるだけ当院で治療を行うこととしています。悪性疾患の場合は大学病院やがんセンターなどに初期治療を依頼し、その後のフォローや化学療法などはできる限り当院で行う、という方針をとっています。

1 スタッフ

科長 山中 研二

愛媛大学 昭和 62 年卒

医長 月岡 美喜

愛媛大学 平成 12 年卒

助産師 8 名

2 2008 年度実績

総分娩数 102 件 うち双胎 1 件 帝王切開術 25 件

婦人科手術 腹式子宮全摘術 3 件

 膣式子宮全摘術 4 件

 付属器切除術 7 件

 子宮外妊娠手術 1 件

 卵巣出血止血術 2 件

 子宮頸管縫縮術 1 件

 不妊手術 1 件

 その他 14 件

3 学術活動 なし

耳鼻咽喉科

1 診療科の特徴

当科では手術治療が必要な方を含め、耳鼻咽喉科頭頸部領域を広く診療しています。中耳・鼻咽喉の難治性感染症、突発性難聴やメニエール病等の内耳疾患、顔面神経麻痺等を専門にしています。手術の主なものは、中耳、鼻副鼻腔、咽喉頭、頭頸部の炎症疾患および良性腫瘍、外傷等です。症例によっては日帰り手術やショートステイ手術も行っています。

また、補聴器専門外来を設けています。

2 担当医師

佐々木 康

日本耳鼻咽喉科学会認定耳鼻咽喉科専門医

日本耳鼻咽喉科学会認定補聴器相談医

3 2008年度の主な手術

鼓膜形成術	8件
鼓室形成術	3件
その他耳科手術	2件
内視鏡下鼻内副鼻腔手術	15件
鼻中隔矯正術	3件
その他鼻科手術	8件
扁桃摘出術	5件
その他口腔咽頭手術	2件
咽頭微細手術	2件
気管切開	2件
その他咽頭気管手術	3件
耳科腺腫瘍摘出術	1件
その他頭頸部手術	2件

3 学術活動 なし

放射線科

当院で行う全ての CT、MRI、核医学検査の画像診断、心臓を除く全ての領域の血管造影診断を日常業務としています。さらに、低侵襲（患者様に優しい）といわれている血管内手術（肝臓癌の塞栓術、外傷性出血の止血術、透析シャントトラブルに対する血管形成術など）を受け持っています。

2005年10月に高磁場MRIが最新機種に更新され、同時にCT、MRIはモニター診断もできるようになりました。

また、2006年7月には血管造影装置が更新され、循環器専用と循環器以外の領域用の2台が当院に導入されています。

2008年度途中に64列CTが導入され、CT冠動脈造影、CT colonographyなど先端的な検査も可能となりました。さらに得られた画像は画像サーバに保存しモニター診断を開始しました。また年度末ごろにはサーバから画像データや放射線科の所見をウェブ配信するシステムが稼働しました。

1 スタッフ

医師2名、診療放射線技師6名、看護師4名、事務2名。

(医師紹介)

山本 尚幸 副院長

愛媛大学医学部医学科 昭和61年卒業。医学博士。

専門分野：放射線診断一般、核医学診断、IVR(血管内手術)

取得専門医等：日本医学放射線学会専門医

検診マンモグラフィー読影認定医

日本医師会安全管理推進者

松田 健 放射線科医長

愛媛大学医学部医学科 平成4年卒業。医学博士。

専門分野：放射線診断一般、IVR(血管内手術)

取得専門医：日本放射線学会専門医

2 業績

(1) 読影レポート作成枚数

	2008 年度
一般撮影	2,798
マンモグラフィー	492
上・下部消化管造影	1,012
CT	5,960
MRI	2,629
RI	237
血管造影	96

(2) 検査施行件数

	2008 年度
上・下部消化管造影	908
血管造影(造影のみ)	19
Vascular IVR	77
Shunt PTA	73
TAE , TACE , PTR	4
Others	0
Nonvascular IVR	0

3 学術活動

(1) 講演

2008 年 6 月 唐津 佐賀県緊急被ばく医療基礎講座 I

汚染を伴った外傷患者の取り扱い 山本尚幸

2008 年 7 月 松山 緊急被ばく医療「愛媛フォーラム」

机上演習：想定事故の緊急被ばく医療 山本尚幸

2008 年 9 月 札幌 北海道緊急被ばく医療基礎講座 I

汚染を伴った外傷患者の取り扱い 山本尚幸

2008 年 10 月 松山 愛媛県緊急被ばく医療基礎講座 I

汚染を伴った外傷患者の取り扱い 山本尚幸

2008 年 11 月 伊方町 岬地区勉強会

64 列MDCTを用いた画像診断～新しい可能性について～ 山本尚幸

2008 年 11 月 八西地域医療懇話会

64 列MDCTを中心とした画像診断のご紹介

2009 年 1 月 岩内町 緊急被ばく医療「北海道フォーラム」

机上演習：想定事故の緊急被ばく医療 山本尚幸

(2) 座長

2008 年 9 月 広島 放射線事故医療研究会

パネルディスカッション

「緊急被ばく医療を展開する際の問題点－放射線事故と自然災害が同時発生した
ときの課題－」 山本尚幸

麻酔科

1 麻酔科の紹介

越智科長が赴任して4年目の年となりました。

(1) 麻酔実績

2008年度の麻酔科管理の手術は322件（前年度305件、以下同様）で、うち303件（281件）が全身麻酔、残りは脊椎麻酔、硬膜外麻酔などでした。診療科別の麻酔科管理症例数は外科168件（171件）、整形外科112件（100件）、泌尿器科24件（19件）、耳鼻咽喉科15件（9件）、産婦人科3件（4件、他に眼科2件）となっていました。

(2) 教育研修

今年度は研修医の受け入れはありませんでした。救急救命士の研修としては、就業前病院実習を2名に対し94日、再教育病院実習を15名に対し84日、気管挿管研修を4名に対し94回（成功例のみ集計）、薬剤投与研修を3名に対し18日実施しました。

(3) スタッフ

越智元郎

日本麻酔科学会指導医、日本救急医学会指導医、愛媛大学医学部麻酔・蘇生学 非常勤講師、愛媛大学医学部救急医学 非常勤講師

2 学術活動

(1) 学会・研究会発表

- ・地域自治体病院存続の危機と要蘇生傷病者搬送のシミュレーション

日本蘇生学会第27回大会（10月10日、長崎市）

(2) 論文発表

- ・チョウセンアサガオ中毒の1例

中毒研究 20(3): 275-276, 2007

- ・越智元郎. 視点・論点 医療施設の職員にAED訓練を

八幡浜市医師会法 第70号, page 12-13 (2008年12月23日)

- ・越智元郎：低酸素血症、日本臨床救急医学会・監修、意識障害に関する病院前救護

の標準化委員会・編、へるす出版、東京、2008、page 218-222

・越智元郎：通信指令、畑中哲生・編 プレホスピタルMOOK シリーズ7

新ガイドラインを読み解く、永井書店、大阪、page 7-17 (2009年2月1日)

(3) 講演・講義

・応急処置：災害医学事始め、愛媛大学医学部1年次講義 (7月18日)

・心肺蘇生法、愛媛大学医学部4年次講義 (11月18日、)

歯科口腔外科

歯科口腔外科外来では、口腔外科を主体とする歯科診療を提供しています。埋伏歯の抜歯、口腔内の腫瘍・嚢胞の摘出手術や白板症などの粘膜疾患、癌や骨髄炎、外傷など、広く顎口腔領域に見られる疾患についての診断と治療を行っています。また、舌痛症、口腔乾燥症、顎関節症などの口腔内科的疾患にも対応しています。さらに、心臓病や糖尿病、透析を受けられている方など、全身的な病気をお持ちの方や、体が不自由で一般歯科医院への通院が困難な方への一般歯科治療も行っています。

1 スタッフ

浜川 裕之 (金曜日午前 担当)

昭和 52 年 大阪大学歯学部卒業

日本口腔外科学会専門医・指導医

所属学会

日本口腔外科学会(評議員)、日本口腔科学会(理事・評議員)、日本口腔腫瘍学会(評議員)、日本口腔インプラント学会、日本癌学会、日本癌治療学会、日本頭頸部癌学会、日本口腔粘膜学会(評議員)、日本口腔組織培養学会(理事)、日本唾液腺学会、日本分子生物学会、American Association for Cancer Research、International Association of Oral and Maxillofacial Surgery、International Congress on Oral Cancer

中城 公一 (水曜日 担当)

平成 5 年 徳島大学歯学部卒業

日本口腔外科学会専門医

所属学会

日本口腔外科学会、日本口腔科学会、日本癌学会、日本癌治療学会、日本頭頸部癌学会、日本口腔腫瘍学会、日本口腔組織培養学会、American Association for Cancer Research、American Society of Clinical Oncology、Asian Association of Oral and Maxillofacial Surgery

住田 知樹 (月曜日 担当)

平成 6 年 大阪大学歯学部卒業

日本口腔外科学会専門医

所属学会

日本口腔外科学会、日本口腔科学会、日本癌学会、日本癌治療学会、日本頭頸部癌学会、

日本病理学会、日本口腔腫瘍学会、日本口腔組織培養学会、日本口腔診断学会、日本口腔インプラント学会、日本有病者歯科医療学会、日本顎顔面インプラント学会、American Association for Cancer Research、Asian Association of Oral and Maxillofacial Surgery

2 臨床成果

昨年度の外来患者症例の一部を以下に示します。(2008年4月～2009年3月末現在)

埋伏智歯・正中過剰埋伏歯	57例
粘液嚢胞	4例
顎関節症	64例

3 学術活動

なし

リハビリテーション科

急性期疾患を中心に地域と連携を図り、最適で良質なリハビリテーションが提供出来るように努力して参りました。今後ともご協力の程よろしくお願い申し上げます。

1 施設基準

- ・脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅱ）
- ・運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅱ）

2 スタッフ

医師 1 名、理学療法士 5 名（内 1 名は呼吸療法士認定あり）、作業療法士 1 名、看護助手 3 名、日本事務医療センター1 名

3 2008 年度統計

項目	外来件数	入院件数
脳血管疾患等リハ料	341	7,865
運動器リハ料	4,516	14,241
呼吸器リハ料	27	649
心大血管疾患リハ料	96	2,243
算定不可	116	1,736
物理療法のみ	10,718	61
早期加算	—	11,582
総合評価料	—	544
退院時リハ指導料	—	724
筋電図	—	34

4 その他の統計

カンファレンス	4回／週	—
参加委員会	8委員会	—
検診等補助業務	3件	—
研修会参加	院内 11回	院外 12回
リハ科内研修	勉強会 6回	症例報告会 7回
学会発表	1回	四国理学療法士学会
講師（研修会等）依頼	院内 6件	院外 4件
実習生	長期 大学 1名 専門 6名	短期 専門 3名
職場体験等	3件	—

5 学術活動 なし

臨床病理科

臨床病理科では採血、血液検査、生化学免疫検査、細菌検査、輸血検査、病理・細胞検査、生理検査等を行っています。病気の診断や治療に役立つよう、「正確で早く」をモットーに医師や看護師へ情報を提供しています。

他病院にさきがけ始めた早朝検査も 6:30、7:00、8:30 という 3 段階の時間差出勤で、なおかつ曜日によって人数を変えるという具合に進化し、病棟の検体検査については 8:30 までに検査が終了しているという画期的なシステムをとっています。そのために、検査に要する自動分析機も大型の物でなく、中型で小回りの利く経済的な物で対応出来るようになりました。また 8:30 から診察される外来患者様の検査も、よりスムーズに進めることが出来ます。遠方よりお越しの方々には、検査結果の説明を受けに何度も足を運ぶことのないよう、特殊な検査以外は当日での対応を心がけています。

今年度は中途退職 4 名、定年退職 3 名と残されたスタッフには大変な年となりましたが、生理検査室をワンルーム化することや、守備範囲の変更で、どうにか難局を乗り越えることが出来ました。医療の質が問われる現在、スタッフにはそれぞれ目標を持たせ、レベルアップに努めるため積極的に認定免許を取得すべく日々勉強しております。そして新しい試みに常に前向きに取り組んでいけるアクティブな検査室を目指していきたいと思っています。

1 2008 年度統計

分類	件数
一般検査	139,581
血液検査	149,012
生化学検査	414,206
血清検査	4,691
病理検査	785
細胞検査	1815
細菌検査	6,766
生理検査	16,918
合計	733,774

2 スタッフ

4月～6月	臨床検査技師	18名	準看護師	1名
7月～9月	臨床検査技師	16名	準看護師	1名
9月～12月	臨床検査技師	15名	準看護師	1名
1月～3月	臨床検査技師	14名	準看護師	1名
4月(予定)	臨床検査技師	12名	準看護師	1名

3 認定免許

細胞検査士	1名
循環器超音波検査士	1名
消化器内視鏡技師	1名
二級臨床検査士血液	1名
二級臨床検査士循環生理	1名
血管領域超音波検査士	1名(新規)
特定化学物質取扱責任者	1名(新規)

4 学術活動

(1) 学会、研究会発表

山村 展央 2008年11月 第29回南予循環器画像研究会
「超音波検査が有用であった左側心膜完全欠損症の一例」

(2) 論文発表

なし

(3) 講演、座長、司会、企画

山村 展央 2008年11月 第41回中四国臨床検査医学会ハンズオン
「下肢静脈エコー」

山村 展央 2009年3月 愛媛県生理検査研修会 企画・司会

放射線室

放射線室では主にX線を使った検査をしています。一般的にはレントゲンという名前で行われている検査です。

各装置とも、メーカーと保守契約を結び、定期点検を行っています。

朝7時過ぎには各装置の始業点検を行い、異常があっても患者さんに迷惑かけないように努力しています。

MRI,CTといった特殊検査なども、できるだけ当日に撮影できるよう努力しています。

最新医療機器は、CT(64列)・MRI(1.5T)・血管造影装置2台、それぞれのカテゴリーの最新鋭検査機器を取り揃えています。

それらの最新医療機器を常にベストの状態に使えるよう、扱う技師も日々勉強しています。

また、八西地区すべての病院の先生方、患者さんにいつでも利用して頂けるように、各装置の利点の説明なども行っています。

1 2008年度検査件数

一般撮影	:	18,606件
C T	:	5,960件
M R I	:	2,629件
血管造影	:	260件
透視検査	:	1,175件
骨密度測定	:	509件
乳房撮影	:	492件

2 スタッフ

2008年度診療放射線技師数：6名

有資格

放射線管理士（日本放射線技師会）

放射線危機管理士（日本放射線技師会）

マンモグラフィー認定技師（マンモグラフィー健診精度管理中央委員会）

3 学術活動 なし

薬局

薬局は、6名の薬剤師、3名の事務員で構成しています。

薬剤師の任務は、調剤をはじめ医薬品の供給、その他薬事衛生を司ることにより公衆衛生の向上および増進に寄与し、国民の健康な生活の確保に努めることにあります。

薬局の業務は、患者様への「医薬品適正使用」を基本として、調剤、製剤、薬品供給、薬品管理、医薬品情報管理、薬剤管理指導などを行っています。

(調剤) 処方箋により医薬品を調整して交付します。

(製剤) 市販されていないが、臨床の場で必要な医薬品を製造します。

(薬品供給) 必要な医薬品を購入し、使用できるように準備します。

(薬品管理) 薬品の在庫管理、品質管理、麻薬等の法規制がある薬品の管理をします。

(医薬品情報管理) 医薬品情報の収集・整理・伝達を行います。また、病院内・外からの薬についての問い合わせに答えます。

(薬剤管理指導) 入院患者様へ薬の説明や相談、患者様の薬の履歴を調べて飲み合わせや重複のチェックを行います。

以前の薬剤師業務の大半は外来患者様への薬の調剤でした。院外処方箋発行により、薬剤師の業務は入院患者様を主体とした業務に変わってきました。薬剤師がベッドサイドで医療スタッフと共に患者様の薬学的ケアを行う為がんばっています。また、今日の医師不足、看護師不足による医師、看護師の負担を少しでも軽減できるように抗がん剤の調整にも取り組みました。処方箋のチェック、薬による副作用や薬同士、サプリメントとの相互作用のチェック、患者様に合わせて服薬し易いよう工夫することなど、薬剤師ならではの薬学的ケアが、医師によるケア、看護師によるケアと共に重要な業務となってきています。

1 業務実績

2008年度の薬局業務集計（総数）

処方箋枚数

外来処方箋 1,248 枚

入院処方箋 26,749 枚

薬剤管理指導業務 4,096 件

2 学術活動

(1) 座長

2008年11月8日 岡山

第47回日本薬学会・日本病院薬剤師会中四国支部学術大会
「外来化学療法における薬剤師の役割」 菊池 均

栄養療法科

栄養療法科では、「おいしく食べていただく事」と同時に、食べる事で身体の内面から健康になるよう、患者さんの病状に応じて適切な食事を提供し、疾病の治癒促進を図るという役割を担っています。また、様々な病態をもつ患者さんに、それぞれの病態や理解度に応じて、日常の食生活を適切なものに改善できるようにアドバイスを行い、日々患者さんの健康回復に貢献できるように努めています。

2008年度より給食業務の委託化に伴い、管理栄養士が担当病棟をもち、入院患者さんの栄養管理を行うようになりました。定期的に栄養スクリーニング・ベッドサイド訪問を行い、個々に応じた栄養管理を計画・実施しています。

1 スタッフ

(1) 病院

管理栄養士 4名

(2) 委託

管理栄養士 1名、栄養士 2名、調理員 17名

2 院内活動内容

- ・栄養指導(糖尿病教育入院・入院栄養指導・外来栄養指導・外来糖尿病教室など)

	個人 (人)	集団 (人)
2008年度年間外来栄養指導件数	919	84
2008年度年間病棟栄養指導件数	592	11
合計	1,511	95

- ・糖尿病週間行事展示(2008年11月)
- ・栄養管理加算実施
- ・褥瘡回診
- ・NSTへの参加

- ・産科での祝膳(出産後に提供するお祝いの食事)の開始
- ・後期高齢者退院時栄養・食事指導実施
- ・非常食の確保(2食分/200人分)

3 院外活動内容

- ・八幡浜・大洲糖尿病チーム医療研修会
 ※症例発表・司会等担当
- ・小児糖尿病サマーキャンプ参加(2008年8月7～8日、10～11日)

4 学術活動

(1) 学会発表

① 病診連携における栄養士の課題

井上貴美子、井上昌子、大家こずえ、薬師神江利、酒井武則、竹智 治

日本糖尿病学会中国四国地方会第46回総会(2008年11月)

第12回日本病態栄養学会年次学術集会(2009年1月)

② カーボカウントを用いた栄養指導の試み

薬師神江利、井上昌子、大家こずえ、井上貴美子、酒井武則、長谷部晋士、竹智 治

日本糖尿病学会中国四国地方会第46回総会(2008年11月)

第12回日本病態栄養学会年次学術集会(2009年1月)

医療機器管理室

2007年4月医療法改正により、医療機器の保守管理が義務付けられ、当院においてもそれに併せて正式な部署として医療機器管理室が発足し、2年が経過しました。

医療機器の安全使用が注目される昨今、当院でもスタッフが安心、安全に医療機器を使用できるよう出来る限りのサポートを行っております。

また、我々スタッフもメンテナンス講習会等に積極的に参加し、医療機器の安全な保守管理に努めております。

1 スタッフ

医療機器管理室室長 山本尚幸副院長（診療支援部長）

兵頭崇之（臨床工学技士）

宇都宮悠（臨床工学技士）

計3名

2 業務

- ・院内の医療機器の保守管理業務
- ・慢性の血液透析を中心とした血液浄化業務

3 2008年度統計

(件)

シリンジポンプ	使用前点検	162
	定期点検・修理	60
輸液ポンプ	使用前点検	2,274
	定期点検・修理	247
低圧持続吸引器	使用前点検	44
	定期点検・修理	10
人工呼吸器	使用前点検	51
	定期点検・修理	13
除細動器	定期点検・修理	13
透析関連機器	定期点検・修理	75
酸素テント	定期点検・修理	5
保育器	定期点検・修理	20
IABP	定期点検・修理	12
心電計	定期点検・修理	17
麻酔器	定期点検・修理	45
血圧監視装置	定期点検・修理	20
患者監視装置	定期点検・修理	45
医療ガス関連器具	点検・修理	32

・アフレスシス (延べ件数) (件)

CHDF	5
DHP	6
その他	1

・ME ニュース : 6号発行

・院内勉強会 : 10回実施

4 認定免許

透析技術認定士 1名

3学会合同呼吸療法認定士 1名

アフレスシス認定技士 1名

5 学術活動

(発表)

・透析新聞発行 5年半を振り返って

石見久美 兵頭崇之 ほか

(第28回 南予透析研究会 2008.5.15 宇和島市)

(第19回 愛媛人工透析研究会 抄録発表 2008.8.30 松山市)

看護部

1 看護部の理念

心は安心 技術は安全 笑顔で看護

2 看護方針

私たちは、専門知識・技術をもち、患者さんの立場に立った思いやりのある看護を目指します。

私たちは、地域の皆様に信頼される看護を目指します。

私たちは、健全な経営にむけて努力します。

3 2008年度看護部目標

- (1) 患者さんを中心にした一貫した看護ができます
- (2) 医療者間の連携を密にします
- (3) 時間管理ができます

4 スタッフ紹介 (2008年4月1日現在)

看護師 174名 助産師 9名 准看護師 29名 看護助手 38名
計 250名

5 認定資格等

認定看護管理者	1名
愛媛地域糖尿病療養指導士	4名
呼吸療法指導士	2名

6 人材育成

(1) 専門研修 (2週間以上の研修)

看護管理者 (ファーストレベル研修)	2名
(セカンドレベル研修)	1名

(2) 2008年度愛媛県糖尿病看護実践に強い看護師育成研修会 1名

7 実習・体験学習の受入れ

- ・帝京第五高等学校
- ・徳島県立看護学院看護学科（通信制）
- ・中学生職場体験
- ・愛媛県看護協会 訪問看護実習
- ・瀬戸内短期大学

8 講師派遣

テーマ	氏名
中学生の性教育（14校）	原田 恵美
マタニティ倶楽部	高橋 砂智子
帝京第五高等学校（母性看護）	泉 佳代・菊池 絹美
第9回南予MC 西予 ICLS コース ・ 基礎コースの事前準備、講義及び実践トレーニング	川口 久美
糖尿病予防教室	

9 行事・専門教室などの開催

行事名	開催日	参加者数
ふれあい看護体験	5月15日	3名
第8回ストーマ患者さんの集まり	11月1日	24名
糖尿病週間行事	11月6日	20名
糖尿病教室「たまごコース」	4回	60名
糖尿病教室「にわとりコース」	2回	6名
糖尿病教室「みどり会総会」	1回	14名
糖尿病教室「自己血統測定器の使いかた・低血糖について」	1回	2名
母親学級	毎月第1水曜日	53名
ストーマ外来	毎月第3水曜日	47名

10 2008 年度院内教育

研修名		目標	内容
年間研修	安全	1. 注射のマニュアルを遵守します 2. 効果的な抑制が実施できます	①注射のデモンストレーション ②安全管理とは・医療安全の動向と現状 ③効果的な抑制方法のデモスト
	感染	標準予防策を徹底し、感染対策を適切に遂行できます	①標準予防策 ②医療廃棄物の取り扱い ③機械器具の消毒と滅菌
	全体研修	自己研鑽ができます	褥瘡・医療ガス・企業の安全管理・転倒転落・医療感染の研修を6回行いました ICLS. BLS
	1年目	看護に必要な基礎知識、看護技術が習得できます	基礎的な看護技術（吸引・体位交換・急変時の対応・食事介助・心電図）の知識と実演・人工呼吸器・中材実習
プリセプター	1. プリセプターが自分の役割を理解し、プリセプティを円滑に受け入れることができます 2. 1年間の体験を通し、自己の成長へとつなげることができます	プリセプターとしての役割を学び、各部署のプリセプターと情報交換	
2年目	1. 組織における自己の立場を認識し、それぞれが持つ役割に責任を持ち行ないます 2. 自己の看護観を養います 3. 自己学習の仕方が解り努力することができます	看護観を養うため「星野豊広」の抄読会 ケーススターデーをして看護の振り返り 職場内看護体験 看護観とは	
3年目	看護研究の流れが理解でき、発表ができます（2年間）	昨年から研究に取り組み、1月28日に院内で発表 文献検索 パワーポイントの使用法	
助手	看護チームの中で自分の役割が自覚でき、一貫した看護ケアができます	消毒・器具の取り扱い方・車椅子への移乗・物品管理等の研修	

中堅研修	リーダー研修	チームリーダーの役割が理解でき、チームナーシングを再認識できます	当院が目指す看護を部長からの話無意識に行っているチームナーシングのあり方、守秘義務、そして、患者に寄り添う心の必要性をもう一度自分がしている看護と照らし合わせます
	救急	救急処置が根拠を持って確実にできます	救急処置について「なぜ、そのようにするのか」エビネンスに基づき実演

1 1 研修会等の発表

テーマ	発表者
第 28 回南予透析研究会「透析新聞発行 5 年半を振り返って」	石見 久美
八幡浜・大洲糖尿病チーム医療研修会	駿河 陽子
日本糖尿病学会 中国四国地方会	駿河 陽子
「当院における心臓リハビリテーション開設後の一例」	駿河 陽子
愛媛県糖尿病看護実践に強い看護師育成研修会報告会	川野 理都子
愛媛県看護研究学会	有馬 寿也
当院における下部消化管内視鏡検査の前処置ニフレック 20 法	林 久子
八幡浜・大洲地区リスクマネージャー医療安全・資質向上研修会	叶 恵美
愛媛県看護協会医療安全シンポジウム	清水美智子
八幡浜・大洲糖尿病チーム医療研修会	中根義貴

地域医療連携室

1 組織の位置づけ

組織 診療支援部

地域医療連携室

2 地域医療連携室の目的

八西地域の中核病院として地域医療に貢献・病診連携を強化・医療の機能分担の推進を目的として 2002 年 10 月開設。

3 スタッフ

田中早苗 看護師 介護支援専門員 福祉住環境コーディネーター2級

別宮由美 看護師

橋本裕子 日本医療事務センター 職員

4 業務内容

(1) 前方連携業務

地域診療所・病院からの診療の予約、検査の予約の受付業務

紹介医療機関への報告書のおよび返書チェック

他医療機関受診・検査予約 転院連絡

診療情報提供依頼

受診相談

統計資料作成

(2) 後方連携業務

① 退院支援

地域保健・福祉・医療機関との連携

地域連携パス

後期高齢者退院支援計画作成

亜急性期入院診療計画

② 介護保険関連機関との連絡調整窓口 連絡調整業務

③ 患者療養相談、医療福祉相談

5 紹介状況

3,45 件

3,902 件

6 診療科別 紹介状況

内科	小児	外科	整形	脳外	婦人	眼科	耳鼻	泌尿	皮膚	放射	歯科	麻酔	救急
989	185	390	241	53	89	21	117	193	41	770	326	6	40

7 地域別 紹介状況

	市内	伊方町	西予市	大洲市	県内	県外	なし
F A X	1,773	361	111	88	65		
持参	567	89	98	96	107	20	76

8 地域別逆紹介状況

3,902 件

市内	伊方町	西予市	大洲市	県内	県外	紹介先不明
2116	343	186	109	428	21	699

9 診療予約

303 件

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
26	25	24	19	23	31	28	28	33	34	22	34

10 診療情報提供依頼

127 件

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
9	15	19	20	31	36	26	23	17	9	10	15

1 1 紹介状に対する回答状況

平均 90%

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
91%	94%	93%	85%	91%	92%	88%	92%	91%	90%	91%	87%

1 2 相談内容 相談件数

183 件

職員の対応に関すること	2
治療内容に関すること	7
健康や病気に関すること	8
経済問題・医療費に関すること	9
医療機関及び福祉施設等の紹介に関すること	67
介護保険に関すること	81
要望や提言	0
その他	11

1 3 退院支援計画

57 件

1 4 亜急性期入院医療管理計画

125 件

1 5 地域連携パス

23 件

1 6 学術活動 なし

医療情報管理室

1 医療情報管理室について

昨今の医療情報管理において、IT化が促進される中、単なる研究や疾病統計だけではなく病院経営・管理の中で一層重要な位置を占めるようになっていきます。また、診療録の保存においても、薬害や病気腎移植問題で過去の診療録保存が問題となり実際には法令のような処分が出来ない状況となり、ますます診療録の保存が重要となっています。

このような中、診療録管理において医療情報管理の専門職である医療情報管理士（HIM）を専従に置いた医療情報管理部門の設置が必須の時代となっています。当院でも 2007 年より設置準備を開始し、2008 年度に、院長直轄の部門として医療情報管理士（HIM）が専従し、医療情報管理室が誕生しました。2008 年 1 月からは、情報管理の中核となる医療情報管理システム PATIO への医療情報入力・カルテ保管をコンピューター管理出来る、入院カルテ管理システム KarteCodeMaster の導入・運用を開始しました。それに伴い、入院カルテ管理業務のさらなる効率化に向けて、入院カルテの一元化（1 入院 1 カルテ）を行いました。システム導入後、従来の簡易型データベースでは入院情報が 13 項目程度でしたが、新システムでは 60 項目以上と様々な情報がデータとして日々蓄積され、各部門からの医療統計情報依頼にも対応出来るようになりました。また、慢性的な人員不足の中、診療業務の効率化に少しでも寄与できるように、カルテ配送回収サービスを開始しました。迅速な対応を実現する為に 5S の導入を行い、最短従来の 5 分の 1 程度の時間でデリバリー出来るようになっていきます。今後は更なる業務効率の改善に向けて旧検索システムの電子化や 5S 活動を進めていきます。

2 スタッフ

診療情報管理士：1 名

日本医療事務センター事務員：2 名

診療情報管理士について

診療情報管理士（HIM）とは、診療記録および診療情報を適切に管理し、そこに含まれる情報を活用することにより、医療の安全管理、質の向上および病院の経営管理に寄与する専門職で、病院機能評価では退院患者 2000 名/年につき 1 名の配置が望ましいとされている。

3 業務報告

(1) 情報管理室業務整備記録

2007年8月21日 病歴室・図書移動

2007年8月23・24日 病歴室 棚撤去

2007年12月16日 PATIO 入院カルテバーコード管理システム設置

2007年12月17～19日 運用指導

2007年12月20日 カルテ棚設置 23棚 (約2年分のカルテ対応)

2008年1月1日 システム稼動 入院カルテ一元化 1患者1-ID管理

2008年4月1日 カルテ回収・配送サービス開始

2008年8月22日 旧カルテ検索カードデータベース化開始 (平成34年後終了予定)

(2) 業務実績

保管入院カルテ総数 1996年～ 56,001冊 (2008年3月31日現在)

詳細後述

(3) 医療情報統計処理

① 診療部

2008年糖尿病を主病名とする入院患者数

2008年脳血管疾患入院患者数

クルニカルパス対象患者調査

コンサルタント提出用入院患者情報 (詳細)

② 院外医療機関

2008年大腿骨頸部骨折調査 (日整会骨粗鬆症委員会事務局)

循環器疾患調査 (愛媛大学総合健康センター)

③ 行政

退院経路調査 (詳細)

4 その他の業務

(1) 学会発表活動支援

研究用ホームページ・メーリングリスト作成支援・文献検索論文作成指導

スライド作成等

(2) 文書作成支援

スキャニング業務

5 業務移管

2008年9月より図書管理業務を事務局へ移管

6 詳細業務実績 (2008年度)

退院カルテ受理冊数

月項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
受理冊数	270	301	238	267	242	250	302	210	255	318	266	322	3,241

棚入れ冊数

月項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
棚入れ冊数	271	302	233	258	264	214	292	165	222	287	278	263	3,049

Drサマリー回収率

月項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
Drサマリー回収率	76.6%	84.5%	74.8%	70.3%	74.7%	66.4%	78.0%	78.8%	65.8%	76.2%	78.3%	69.4%	74.5%

カルテ貸出件数

月項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
カルテ貸出件数	438	501	436	640	480	438	591	508	465	716	538	41	5,792
再入院	80	67	86	90	65	71	72	94	72	85	89	95	966
外来診療	60	54	52	69	48	55	53	48	50	55	52	44	640
書類作成・レセプト	39	43	27	44	23	29	46	48	21	44	30	66	460
検査・書類貼付	16	5	5	1	18	0	19	0	0	16	0	44	124
調査研究	0	0	1	3	6	3	16	2	22	9	5	21	88
問い合わせ・閲覧・コピー	49	59	56	184	75	74	107	50	52	101	66	62	935
サマリー作成	192	269	200	247	236	197	262	253	240	379	282	305	3,062
その他	2	4	9	2	9	9	16	13	8	27	14	11	124

カルテ配送件数

月項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
カルテ配送件数	61	94	92	97	79	76	89	100	73	97	111	99	1,068

7 学術活動

なし

医事係

医事係は主に受付業務・医療費の計算業務・診療報酬請求業務を職員 3 人、日本医療事務センター職員 30 人で行っています。日本医療事務センターでは 2001 年 9 月より品質マネジメントシステム (ISO9001) 及び 2005 年 7 月より (財) 日本情報処理開発協会によるプライバシーマークを取得し、患者様により良いサービスの提供を行うとともに個人情報の保護に努めています。

1 業務実績

在院患者数

年月	内科	小児科	外科	整形外科	脳外科	婦人科	産科	眼科	耳鼻科	泌尿器科	皮膚科	麻酔科	合計
2008/4	2,697	127	1,559	1,683	160	57	151	0	125	131	7	2	6,699
2008/5	2,436	116	1,439	2,013	184	82	76	0	71	220	31	10	6,678
2008/6	2,182	57	1,124	2,023	20	65	80	0	42	316	50	0	5,959
2008/7	2,470	60	1,329	1,761	0	63	73	0	47	332	15	13	6,163
2008/8	2,157	80	1,377	1,461	0	42	47	0	63	295	8	4	5,534
2008/9	2,055	79	1,436	1,463	0	116	86	0	43	252	25	12	5,567
2008/10	1,879	117	1,540	1,725	0	63	53	0	50	221	14	21	5,683
2008/11	2,078	137	1,479	1,733	0	49	51	0	108	227	28	30	5,920
2008/12	2,269	264	1,481	2,109	0	46	83	0	51	312	30	82	6,727
2009/1	2,293	244	1,509	2,115	0	78	89	0	64	326	78	45	6,841
2009/2	2,117	120	1,459	1,699	0	33	74	0	85	260	118	15	5,980
2009/3	2,172	162	1,639	1,527	0	86	133	0	97	235	76	46	6,173
計	26,805	1,563	17,371	21,312	364	780	996	0	846	3,127	480	280	73,924

入院患者数

年月	内科	小児科	外科	整形外科	脳外科	婦人科	産科	眼科	耳鼻科	泌尿器科	皮膚科	麻酔科	合計
2008/4	101	34	57	33	9	5	15	0	5	21	0	1	281

2008/5	83	23	53	48	5	5	9	0	11	15	4	1	257
2008/6	87	13	54	32	1	3	9	0	6	29	3	0	237
2008/7	98	16	57	41	0	10	7	0	5	24	3	6	267
2008/8	73	18	72	43	0	5	8	0	8	17	1	1	246
2008/9	71	15	64	48	0	16	12	0	7	24	2	2	261
2008/10	74	18	72	42	0	8	6	0	9	21	6	4	260
2008/11	91	22	66	51	0	1	7	0	12	29	4	2	285
2008/12	69	49	62	45	0	5	7	0	7	22	4	3	273
2009/1	103	44	54	40	0	9	6	0	6	23	9	1	295
2009/2	80	25	50	35	0	8	7	0	7	21	5	2	240
2009/3	84	34	57	41	0	12	17	0	10	28	5	4	292
計	1,014	311	718	499	15	87	110	0	93	274	46	27	3,194

退院患者数

年月	内科	小児科	外科	整形外科	脳外科	婦人科	産科	眼科	耳鼻科	泌尿器科	皮膚科	麻酔科	合計
2008/4	95	31	60	32	14	4	12	0	9	18	3	0	278
2008/5	103	26	53	42	6	7	13	0	9	16	2	1	278
2008/6	82	17	60	48	1	2	9	0	6	24	5	0	254
2008/7	88	13	49	56	0	10	7	0	8	27	2	6	266
2008/8	85	19	62	42	0	5	8	0	7	23	1	1	253
2008/9	73	14	62	38	0	18	9	0	7	21	3	2	247
2008/10	86	16	82	54	0	9	10	0	7	25	4	3	296
2008/11	67	25	52	36	0	2	5	0	12	27	5	0	231
2008/12	91	39	69	52	0	7	8	0	8	20	5	5	304
2009/1	88	49	46	38	0	7	5	0	3	23	4	2	265

2009/2	84	25	47	45	0	9	8	0	8	22	8	2	258
2009/3	88	35	59	44	0	12	16	0	8	29	3	4	298
計	1,030	309	701	527	21	92	110	0	92	275	45	26	3,228

外来患者数

年月	内科	小児科	外科	整形 外科	脳外科	産婦	眼科	耳鼻科	泌尿 器科	皮膚科	歯科	麻酔科	放射 線科	ドク ク等	合計
2008/4	2,439	793	587	2,227	630	352	679	629	1,117	646	178	0	0	323	10,600
2008/5	2,136	723	600	2,142	631	350	575	612	1,105	784	115	0	0	249	10,022
2008/6	2,123	700	678	2,275	713	317	504	615	1,050	815	164	1	0	252	10,207
2008/7	2,005	881	699	2,409	265	375	564	568	1,137	972	158	0	4	210	10,247
2008/8	1,819	770	699	2,253	148	332	526	624	1,099	859	156	2	58	165	9,510
2008/9	1,860	754	684	2,303	86	375	493	572	1,167	822	183	3	75	217	9,594
2008/10	1,993	736	735	2,469	106	380	482	584	1,161	781	166	1	71	395	10,060
2008/11	1,851	478	578	2,094	95	312	455	533	1,093	580	135	4	78	436	8,722
2008/12	1,998	622	679	2,195	98	297	481	583	1,164	661	140	0	82	177	9,177
2009/1	1,956	513	578	2,073	94	303	380	535	1,169	562	129	1	73	213	8,579
2009/2	1,682	422	600	2,082	111	334	392	587	1,062	600	137	5	93	138	8,245
2009/3	1,947	507	623	2,228	89	294	443	594	1,205	733	184	6	94	84	9,031
計	23,809	7,899	7,740	26,750	3,066	4,021	5,974	7,036	13,529	8,815	1,845	23	628	2,859	113,994

2 学術活動

第41期中四国総支社改善発表大会（2009年2月14日 岡山市）

未集金を発生させないために私たちにできること

市立八幡浜総合病院の行事等

1 イベント

開催日	内容	出演者	参加者
平成 20 年 8 月 30 日	第 5 回やすらぎコンサート 「箏 絹の会」	絹の会	80 名
平成 20 年 12 月 19 日	クリスマスキャロル	幼稚園児、父兄、職員	80 名

2 訓練等

開催日	内容
平成 20 年 5 月 27 日	消防訓練
平成 20 年 11 月 5 日	愛媛県原子力防災訓練
平成 20 年 12 月 7 日	災害医療訓練